

○ 調査問題

5 次の英文 (1) ~ (5) の ( ) に入れる単語として最も適切なものを、  
下のア~エのうちからそれぞれ1つ選びなさい。

(3) ( ) pencils are new.

- ア That
- イ These
- ウ They
- エ This

○ 調査問題の趣旨・内容

【問題の概要】 英文が完成するように、( ) に当てはまる正しい英語 (形容詞) を選ぶ。

【出題の趣旨】 基本的な語彙や文法・語法についての知識を身に付けている。

○ 誤答分析

解答類型	1 アと解答	② 正答 イと解答	3 ウと解答	4 エと解答	0 無解答
反応率	7.4%	43.4%	11.4%	37.5%	0.4%

- 正答率は43.4%であった。空欄に続く語が複数形であることから、正答を選ぶことができる。theseのように基本語彙であるが、教科書の出現が多くないものを、教師が授業で使用する(発話するなど)英語等で補っていくことが求められる。
- 誤答としてエが多かったのは、教科書や教師の使う英語を通して、this+名詞という句にふれる頻度が高く、その形の方が生徒にとって慣れ親しんだ形であることが考えられる。
- アまたはエと解答したものは、空欄に続く語が複数であることに対して、これらの選択肢の語は単数を表すものであることから単数と複数の区別等、語彙の基本的な意味や使い方に課題があることが考えられる。ウと解答したものは、語の意味や役割(品詞)の理解に課題があると考えられる。

## ○ 指導上のポイント

### 体感的に語句や表現の意味の理解を深める指導の工夫

語句や表現を導入する際に、場面の中で実物やジェスチャーを伴って導入するなどの工夫をすることで、生徒が実感を伴って語句や表現の意味を理解することを助けることができる。

ここで取り上げた語句のように距離感や数を表すもの、また位置関係や大きさを表すものなどは、対訳を当てて意味を理解させるだけではなく、生徒が実感をもってイメージで意味を捉えることができるように工夫することが大切である。

#### 小中連携 の視点

小学校では体験的に外国語を学んでくるので、その経験を生かせるよう工夫したい。

### 長期的スパンで繰り返し語句や表現にふれる指導の工夫

学習内容を定着させるために、長期的なスパンで見直しをもって、言語材料に繰り返しふれる機会をつくるのが大切である。特に、単元の主たる目標として扱われていない言語材料は教科書等を活用して繰り返しふれさせたい。当該学年だけでなく、学年をまたいで教科書を見直す機会をつくるなどの工夫が考えられる。

#### (1) 教科書を活用して既習の言語材料を復習する活動 (Grammar Hunt/Sentence Hunt)

復習として、教師が既習の言語材料を指定し、それが使われている文を教科書から探す活動を行う。教科書は場面が明確に設定されているので、どのような場面で使われるかという視点で復習することができる。

#### (2) 教科書を活用した定期的な確認

単元で主たる言語材料として取り上げられていないものについては、教科書本文で扱われている場面や状況を活用して、確認することが大切である。また、文法のまとめのページなどを利用して振り返ったり、整理する機会をつくったりすることが定着につながる。

## ○ 復習シート・コバトン問題集の活用

1 次の英文 (1) ~ (5) の ( ) に入れる単語として最も適切なものを、下のア~エのうちから1つ選びなさい。

(1) A: What do you usually do after school?

レベル5・6

答え

B: I ( ) the piano.

ア practice イ go ウ like エ look

(2) A: Mike, do you play soccer every day?

レベル5・6

答え

B: No, I don't. I play soccer ( ) Sundays.

ア in イ at ウ by エ on

(3) A: Whose book is this?

レベル7~9

答え

B: It's ( ).

ア me イ your ウ Ken's エ them

【出典】 R1 復習シート

2年生・英語 レベル5~9

2 「読むこと」

○ 調査問題

6 次の(1)～(5)の会話の( )に入れる英文として最も適切なものを、  
下のア～エのうちからそれぞれ1つ選びなさい。

(3) A: Do you want to go for lunch?  
B: Yes. ( )

- ア Do you like cooking?
- イ I know a good restaurant near here.
- ウ When did you eat lunch today?
- エ Let's go out after lunch.

○ 調査問題の趣旨・内容

- 【問題の概要】相手の提案に対して補足する表現を選ぶ。
- 【出題の趣旨】会話文の内容に合う表現を選択することができる。

○ 誤答分析

解答類型	1 アと解答	② 正答 イと解答	3 ウと解答	4 エと解答	0 無解答
反応率	2.3%	59.8%	6.2%	31.5%	0.2%

- 正答率は、59.8%であった。相手の発話の意図をくみ取り、会話の内容や状況に合わせて会話を続ける表現を選ぶことが求められる。
- 誤答として、エと解答しているものが多かった。話題として一貫性はあるように思えるが、会話の流れとしては、相手の意図をくみ取っているとは言い難いものである。
- ア、ウと解答したものについては、lunch という語は理解しており、関連する語句から解答したものと考えられる。会話の流れや発話の意図を理解する点で課題があると考えられる。また、選択肢の英文の内容を十分に理解できていないものと考えられる。

## ○ 指導上のポイント

### コミュニケーションの目的や場面、状況等を意識した指導の工夫

文法には、「意味」「形式」「使用場面」の三つの側面がある。意味や形式を確実に押さえるとともに、どのような場面で、どのような内容を伝えているのか等、使用場面を意識して活動を行うことが重要である。また、意味を捉えるときにも日本語の対訳で考えるのではなく、どのようなことを伝えているかという捉え方をしていくことが大切である。

#### (1) やり取りの中でのプラス1文会話活動

会話活動などを行う際に、一問一答で終わるのではなく、答えにさらに1文を加えて会話をつなげるような指導を継続的に行う。質問に答えるだけでなく、相手の意図をくみ取ったり、話題を意識して広げたりしていくような経験を積ませていくことが大切である。また、活動の導入の際に、教師が積極的に答え方や質問の仕方のモデルを示していくことも重要である。帯活動でQ A活動などを行う際にも、形式だけに注目することにとどまらず、内容を意識するように指導することが重要である。

#### (2) 教科書の場面設定を活用した活動

教科書にある対話文に合わせて、文を加えていく活動を行う。場面や会話の流れを理解し、自然な会話になるように会話の最後にセリフを付け加えたり、会話の間にセリフを加えたりする。生徒のつくったよい例をクラス全体で共有し、お互いに学び合う機会とすると同時に、苦手な生徒への支援とする。表面的な理解ではなく、状況を理解し、どのようなセリフを加えればよいかを考える機会をつくることにつながる。



### 小中連携 の視点

小学校外国語・外国語活動では、設定された場面の中でどのような表現が使われるかという学び方を体験する。「言語の働き」に注目するとともに、小中接続の視点からも、中学校の授業でも、言語の使用場面を明確に設定した上で言語活動等を行うことが大切である。

## ○ 復習シート・コバトン問題集の活用

2  
次の(1)～(4)の会話の( )に入れる英文として最も適切なものを、次のア～エのうちから1つ選びなさい。

(1) A: How many classes do you have today?

レベル7～9

答え

B: ( )

ア I have two birds.

イ I like English.

ウ I have six.

エ I like our school.

(2) A: ( )

レベル7～9

答え

B: She is writing a letter.

ア What's this?

イ What is Mary doing?

ウ Who is this girl?

エ Does Mary write a letter in Japanese?

【出典】 R1 復習シート  
3年生・英語 レベル7～9  
2 読むこと